2017年（平成29年）11月20日　月曜日　第615号（毎週1回発行）

APJ

本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）

パチンコ・パチスロ業界最新情報

週刊アミューズメントジャパン

Weekly Amusement Japan

2017年（平成29年）11月20日 月曜日

編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL.03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

Weekly Amusement Japan
©2017 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing
Amusement Press Japan
planning & production
Amusement Promotion
printing
Four Plus One
年間購読料27,000円（税・送料込）
本紙記事の無断転載を禁じます。

週刊アミューズメントジャパンは
毎週月曜日 Webアップ!
PDFでもご覧いただけます
アミューズメントジャパン　検索

今週の紙面から

GRT第1弾が始動
『パチスロコードギアス反逆のルルーシュR2 C.C.ver.』
内覧会 サミー　2面

最新ゴチはWルート
『CR黄門ちゃま～神盛JUDGEMENT～』
展示内覧会 平和　2面

動画CMで新機種PR
『フィーバー機動戦士Zガンダム』
SANKYO　2面

ケツメイシがラジオ出演
サミー　2面

パチンコを楽しむ外国人が急増
重宝する「パチンコ多言語ガイドブック」　2面

行政講話全文
警察庁生活安全局保安課 津村優介 課長補佐　3面

研修は新時代への備え
アポロガス 篠木雄司社長　4面

特集 今こそ、人への投資を
第二営業部、リスペクトマインド、デライト・コミュニケーションズ、トリスト　4面

警察庁

12月以降の高射幸性パチスロの削減

自主的な取り組み早期に

余暇進秋季セミナー 津村課長補佐が講話

14日に開催された余暇環境整備推進協議会の秋季セミナーで、警察庁生活安全局保安課の津村優介課長補佐が講話し、パチスロの高射幸性遊技機について、「新基準に該当しない遊技機、とりわけ特に高い射幸性を有すると区分した遊技機の削減に向けた業界の自主的な取り組みを早期に決定していただきたい」などと要望した。

【講話全文を3面に掲載】

津村課長補佐は、「ぱちんこ営業の健全化を進めていく上で特に必要であると考えること」として、ぱちんこへの依存防止対策、射幸性の抑制に向けた取り組み、検定機と性能が異なる可能性のある遊技機の問題、遊技機の不正改造の絶無について、遊技機の流通における業務の健全化について、の5項目について警察庁の考えを示した。

ぱちんこへの依存防止対策については、昨年12月に成立したIR推進法の審議で重大な問題と指摘されたことに起因して、今年3月のギャンブル等依存症対策推進関係閣僚会議で、ギャンブル等依存症対策の強化に関する論点整理が決定され、その中で、ぱちんこへの依存防止対策の課題として出玉規制の基準等の見直し、営業所の管理者の業務として依存症対策を義務付けるなどが掲げられた一連の流れを述べた。そのうえで、「先般、出玉規制の強化や管理者の業務への依存防止対策の追加等を内容とする風営適正化法施行規則及び遊技機規則の一部を改正する規則が制定・公布され、来年2月1日に施行されることとなった」とし改正規則の内容を説明。「今回の規則改正により、改正規則が施行される来年2月1日以降は改正規則に適合しない遊技機は設置することができなくなる。ただし、改正規則に規定される経過措置により、改正規則の施行後であっても、現行基準による認定を受けた遊技機又は検定を受けた型式に属する遊技機については、当該遊技機の認定又は検定の有効期間が満了するまでは、引き続き営業所への設置が認められる」と今後の流れに言及した。さらに「規則改正に伴い、都道府県公安委員会に対して認定申請等が多数寄せられると考えられるが、認定申請等に関する事務処理を滞りなく進めるため、都道府県警察と必要な調整を適切に行っていただくように」と要望した。

また、今回の改正で営業所の管理者の業務に依存防止対策が追加されることによって、「営業所で行われている各種の自主的な取り組みが管理者の業務として位置付けられることとなる」とし、リカバリーサポート・ネットワークの営業所内外における周知、自己申告プログラムの導入、過度な遊技を行わないよう客に対する注意喚起の実施、18歳未満の者の営業所立入禁止の徹底など、ぱちんこへの依存防止対策を各営業所において確実に実施するよう求めた。

来月1日の削減目標値 確実に達成を

射幸性の抑制に向けた取り組みについては、業界6団体が新基準に該当しない遊技機の設置比率に目標値を定め削減に努めている点に触れ、「昨年12月1日を期限に定められていた削減目標値については、営業所別に見た場合、目標を達成できていない営業所が多数あったと聞いている。また、回胴式遊技機については、『メーカー団体が特に高い射幸性を有すると区分した遊技機については、ホールはこれを優先的に撤去する』とした6団体合意のとおりには、必ずしもなっていないという話も聞いており、こうした点について非常に残念に感じている」とし、その上で「現在の目標値設定は、来月1日までとなっているが、今後は、来月1日以降における、新基準に該当しない遊技機、とりわけ特に高い射幸性を有すると区分した遊技機の削減に向けた業界の自主的な取組を早期に決定していただきたい。また、こうした経緯も踏まえて、全ての営業所が来月1日の削減目標値を確実に達成していただくように」とくぎを刺した。

くぎに関する問題 生じさせない意識を

検定機と性能が異なる可能性のある遊技機の問題については、「誠に残念なことだが、ぱちんこ営業所において遊技くぎを曲げて検定機と異なる性能を創出する事案はいまだに継続して発生している。これまでにもそのような事案は射幸性の適正管理を侵害する悪質な不正改造事案であると申し上げているが、依然、客寄せ等営業者側の都合により入賞口付近のくぎを開け閉めしていた事案が発生している」と指摘。「こうした問題が続くようであれば、業界の信用は大きく損なわれ、大衆娯楽という地位から大きく離れてしまう」と危惧を示した。

さらに「今回の規則改正では、射幸性の抑制の観点からではあるが、ぱちんこ遊技機にも『設定』の導入が認められたことから、くぎ曲げの抑制にも資するものと考えている。こうした改正を踏まえてもなお行われるくぎ曲げについては、とりわけ厳しく取締り等を行う必要があると考えている。今後はくぎに関する問題を生じさせないという意識が、遊技機製造業者、ぱちんこ営業者の枠を超えて、業界の方々に広く定着することが必要だ」との考えを示した。

従業員が2254万円募金

マルハン

マルハンユニオンの林万喜中央執行委員長（左）と、社会福祉法人中央共同募金会の中島議次常務理事

マルハンは10月18日、マルハンユニオン定期大会で従業員による募金2254万円を赤い羽根共同募金に寄付。同団体から感謝状が贈られた。

マルハンでは2010年から各事業所に設置している従業員用飲料自動販売機の売上1本につき10円をマルハン従業員募金として積み立て。従業員からの申請に基づき、国内外のNPOやNGO、福祉団体などに寄付している。

今回の寄付金は、社会福祉法人中央共同募金会を通じて、高齢者や障がい者、児童・青少年の課題解決に役立てられるという。

フットサル大会開催

ブローバグループ

ブローバグループは3日と4日、広島市のミズノフットサルプラザ広島で「第23回ブローバカップフットサル大会」を開催。105チームの計755人が参加した。

大会には、サンフレッチェ広島の森島司選手や松本泰志選手、マスコットキャラクターのサンチェくんはじめ、サンフレッチェ広島、広島F・DOなど地域のスポーツチームのメンバーが駆け付けた。

自治体に青パト寄贈

夢まるふぁんど委員会

夢まるふぁんど委員会は1日、千葉市中央区の県庁前羽衣公園で、夢まる防犯パトロールカー寄贈式を開催。千葉県市川市、浦安市、市原市、袖ケ浦市、芝山町の5自治体に、各1台の青パトを寄贈した。

県内5つの自治体に5台の青パトが寄贈された

千葉県遊協の田中理事長

同委員会は千葉県遊技業協同組合と千葉日報社、千葉テレビ、ベイエフエムの県内3社で構成されている。2006年から県内の市区町村に青パトの寄贈を開始。今回で合計60台の寄贈となり、県内すべての市区町村に青パトが配備されることになった。

夢まるふぁんど委員会を代表して挨拶した千葉県遊協の田中幸也理事長は、「今回で発足時から目標とした全市区町村への寄贈が終わったが、これからも続け、県内の犯罪抑止に貢献していきたい」と述べた。

来賓からは森田健作千葉県知事、千葉県警察本部の齊藤憲一生活安全部長が挨拶。森田知事は「寄贈された青パトを有効活用し、日本一安全で安心な町を作っていく」と話した。